

小規模校のメリット・デメリットについて

資料 1

○学校規模の適正化が課題となる背景（文科省_適正規模・適正配置手引きより）
児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていくという学校の特質を踏まえ、小・中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましい

○小規模校のメリット・デメリット

	メリット	デメリット
ア 教育環境や学習環境	・個に応じたきめ細かな指導がしやすい	・互いに考えを出し合い、学び合い、高め合おうとする気持ちが育ちにくい
イ 社会性の育成と生活環境	・個々の特性をお互いによく理解しており、人間関係が深まりやすい	・人間関係づくりの基礎を築く最も大切な時期において、幅広い人間関係や社会性が育ちにくい
ウ 学校経営・運営	・少人数の教職員構成であるため、共通理解を図りやすく、小回りの効く経営・運営ができる	・教職員が少人数であることや異動サイクルが短いことから、効果的・創造的な学校運営や指導体制の構築が難しい <u>中学校ではすべての授業で教科担任を置くためには9学級以上必要</u>
エ 学校生活全般	・児童生徒一人一人の特性や能力を把握しており、どの教職員においても、個別の対応が可能である ・部活動などにおいて、児童生徒の能力や技量に応じたきめ細かな指導ができる ・学習スペースや教具・器具などを比較的自由に活用でき、個のペースで学習することができる	・児童生徒を固定的に見てしまいがちになり、指導目標の設定が低くなりがちになる ・人数が少なく、チームが組めなかったり対外試合ができなかったりする場合が出てくる ・校外学習や文集等の各種の学習活動や修学旅行等において、個人分担費用が通常よりかさむ(徳田小、田滝小、田野小合同修学旅行)

◎留意事項

- ・メリットは見方によってはデメリットに変わりうるものでもある。
- ・必要なことは、豊かな学力とともに、よりよい人間関係を構築する能力の形成。
- ・「個は集団によって磨かれ育てられていく。」と言われるように、一定規模以上の集団の中で過ごす環境も必要。
- ・ある程度の集団の中で、周りからの刺激や影響を受け、柔軟に、力強く学び、行動することができる環境の提供。

(参考資料)

1.文部科学省【参考資料1】

公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引(文部科学省)

2 章適正規模・適正配置について

(1) 学校規模の適正化 P6～P14

4 章小規模校を存続させる場合の教育の充実

(2) 小規模校のメリット最大化策 P34～P35

2.新居浜市【参考資料2】

新居浜市立小・中学校の適正規模・適正配置に関する基本計画

3適正規模・適正配置に関する基本的な考え方

(2) 学級数が少ないことによる学校運営上の課題について P8

(3) 学校運営上の課題が児童生徒に与える影響について P8～P9

3.西予市【参考資料3】

第3回西予市宇和町地域小学校再編検討委員会

資料17 大規模校・小規模校のメリット・デメリット

4.新潟県【参考資料4】

新潟県_小規模小・中学校のメリット・デメリット